

標準化活動における中長期的課題を取り巻く現状

中長期WG 主任
井上 友二

yuji@m.ieice.org



主な項目

1. 中長期WGの背景
2. 関連する標準化の状況
 - 2.1 CO2削減を目指して → ICTと気候変動
 - 2.2 事故ゼロを目指して → 次世代ITS
 - 2.3 NWの革新的進化を目指して → 新世代NW
3. 震災からの教訓へ結集を

1. 中長期WGの背景

1. 業際イノベーションによる競争力と協調力の創設
2. 生活者や社会活動の視点からの(標準化)利用法の開拓

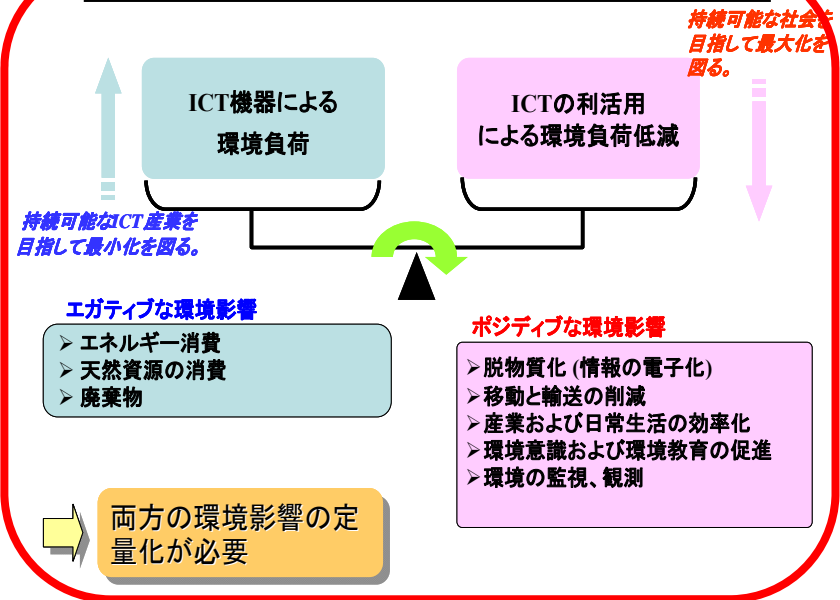


2.1 CO2削減を目指して → ICTと気候変動活動の一端

ITU-T SG5 : ICTの利活用による環境負荷低減およびICT機器等の省エネ、省資源化の観点から標準化

- ・ ICTによる**環境負荷影響評価手法**の勧告案の検討 (課題18) ← **日本が先導**
- ・ データセンター等におけるICT機器の省エネ、省資源の観点から、**高電圧直流給電 (HVDC)** の仕様、構成、性能、安全性に関して検討 (課題19)
- ・ 省資源&リサイクルの観点から、携帯電話やその他ICT機器の**ユニバーサル充電器**の勧告化を完了
- ・ 今後はICT機器の**レアメタルのリサイクル**に関する検討 (課題21)

(課題18)ICTの環境影響評価の Scope



日本が主導している活動の一つ

様々な社会活動にICTを活用した場合のCO2削減効果を客観的・定量的に評価できる手法の標準化とその活用法の普及

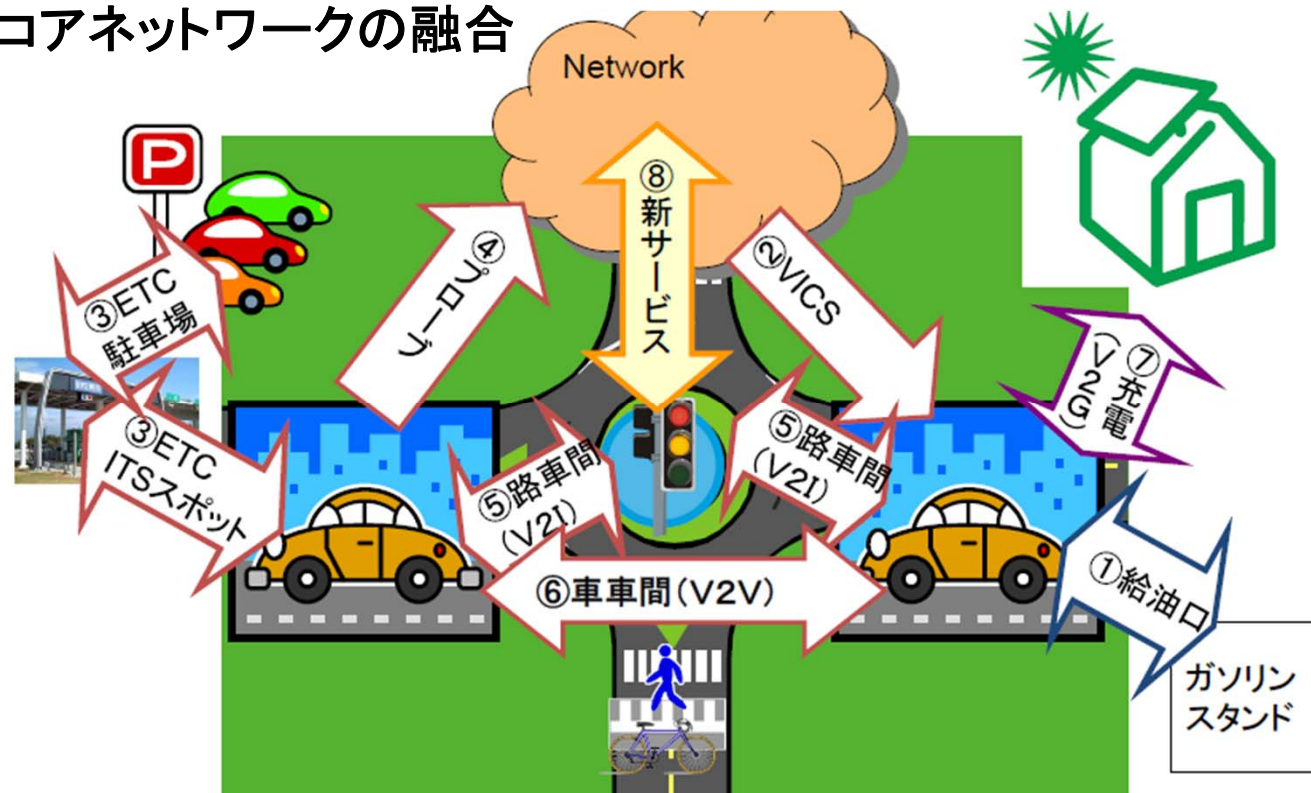
注意すべき諸外国の動向:

- ・ EU は、2011年までに共通のエネルギー消費・排出量測定手法を定めることなどを要請
 - A Digital Agenda for Europe (EU政策プログラムのひとつ) の一部
 - ITU-TとIECが今年中にアウトプット (ITU-Tは9月、IECは12月) を準備、
- ・ ITU-Tを中心に各標準化団体の成果をまとめて調整し、整合性を確立する方針を確認した。

9月会合において、日本主導の勧告案(端谷氏(富士通)ラポータ、折口氏(NTT)エディタ)が合意。

2.2 事故ゼロを目指して → 次世代ITS

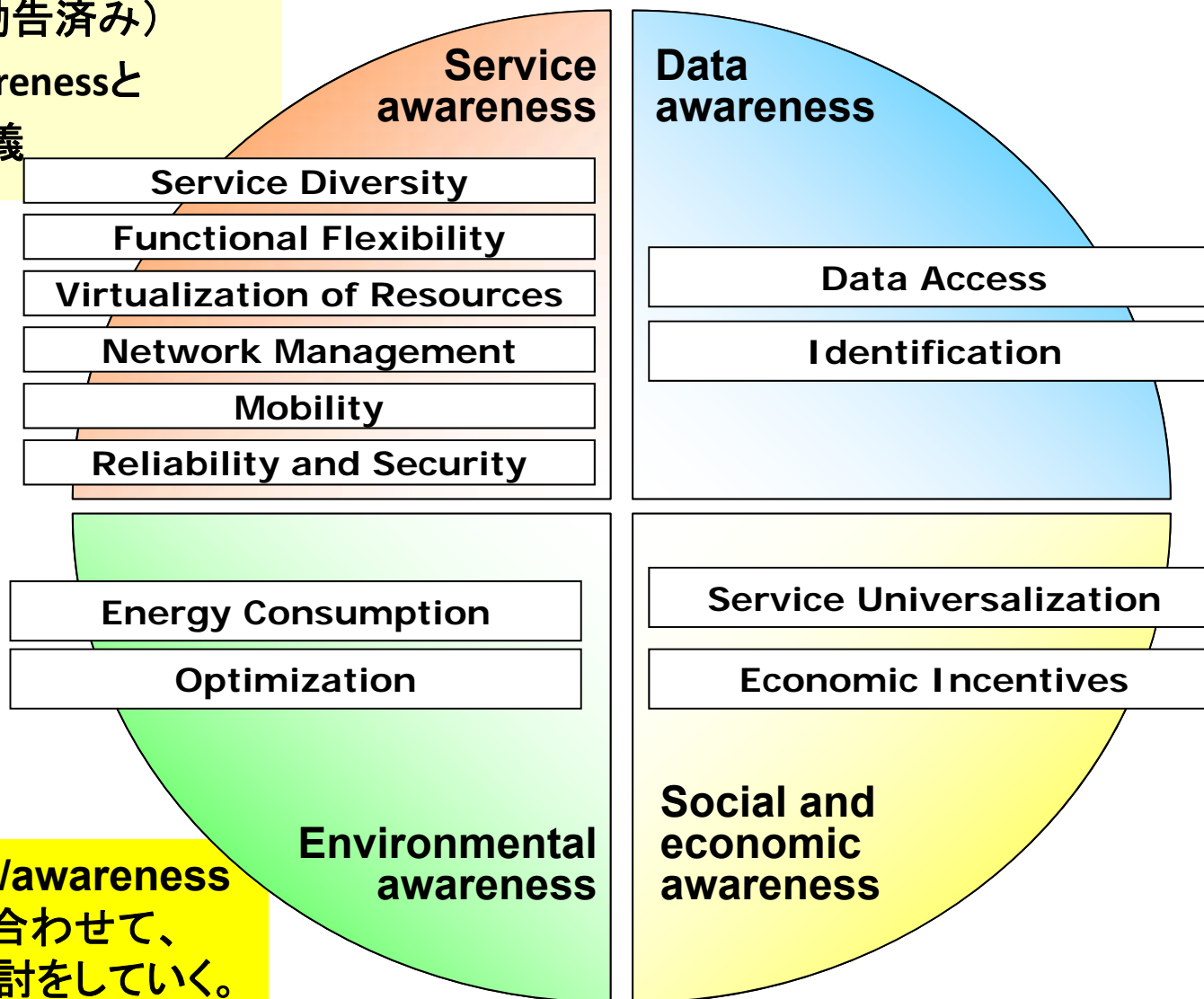
- GSC(Global Standardization Collaboration)が中心となって、次世代ITSの標準化を目指す組織をITUとISOの合同チームとして結成中。
(準備会合8月に日本で開催し、今年末から活動予定)
- 事故の大幅減少、渋滞解消などによる排気ガス削減、運転補助、など
- 新ワイヤレスとコアネットワークの融合



2.3 NWの革新的進化を目指して → 新世代NW

Y.3001(2011年5月に勧告済み)

- ・4つのobjectives/awarenessと
- ・12のdesign goalを定義



今後4つのobjectives/awareness
及び” 将来の課題”を合わせて、
5つの領域において検討をしていく。

3. 震災からの教訓へ結集を

7

震災復旧・復興で20-30兆円
この中で、日本の新たな競争力・強調力を生み出す「新興策」を

“SMART SOCIETYのグランドデザイン”

-Sustainable

+

-Secure & Safe

- Crisis management, and

- Spiritual happiness

- 東南アジアや南米など頻災害国と協業を
 - 革新技術 と 利用法 の両面で